

氏名	Aさん	Bさん	Cさん
学科(学部生)	日本文学学科	国際コミュニケーション学科	国際コミュニケーション学科
所属ゼミ	徳田ゼミ	畠山ゼミ	中島ゼミ
Q1 卒業論文のテーマ	日本舞踊『娘道成寺』の歴史的背景と現代的意義	日本・魯西亜永世の会盟 ～不平等条約に学ぶ川路聖謨の外交力～	メルヒェンから探るヨーロッパ文化—グリム童話を中心に—
Q2 テーマを選んだ理由	【自己の体験】 13歳から藤間流の日本舞踊を習っている  【活かせる強み】 テーマが指導教授の専門分野に属する  【有用性】 伝統芸能を知らない現代人や、海外の方への説明に役立つ	【関心】 北方領土問題に興味があった  【意欲】 ずっと国際政治について国家を重点にマクロで捉えてきたので、法的解釈よりも人間を重点に描いてみたかった	【関心】 ヨーロッパの文化に関心があった  【自己の体験】 留学先のドイツで、19世紀にドイツ人のグリム兄弟によって蒐集された『グリム童話集』が並べられており、『グリム童話集』が現代の大人や子どもにも受け入れられていることを改めて感じた
Q3 作成スケジュール	〔3年生〕 春休み 指導教授と面談 ↓ 〔4年生〕 仮題目提出 指導教授と面談 ↓ 11月末 ・インタビュー 和歌山県道成寺を訪問、副住職の小野俊成さんにインタビュー  ・実践研究 娘道成寺の振り付けの一部を習い、写真をとるため、横浜市の教室を訪問	〔3年生〕 学年末にテーマ決定 ↓ 〔4年生〕 6月 アウトラインを決め、ゼミ内で発表 ↓ 夏休み ・フィールドワーク 泊まりがけで伊豆を訪問、現地での資料収集 ↓ 初秋 執筆開始	〔2年生〕 秋学期 入ゼミ決定 指導教授より卒論関連文献を読むように指示 ↓ 〔3年生〕 春学期 卒業論文構想を発表  (テーマを2度変更。共にハズブルク家関係だったため、テーマを変更してもドイツ語圏であることは共通していた)  10月 テーマ確定 構成・内容について指導教授と面談 執筆開始  ※テーマ変更のため、執筆のための時間が少なく、実質2ヶ月だった。
Q4 書き方の修得先	ゼミで修得  先輩方の卒論を参考	ゼミで修得  先輩方の卒業論文を参考	ゼミで修得  ゼミおよび根占先生のイタリア文化論にて、参考文献の記し方を修得
Q5 卒業論文を書くうえで、困難に感じたこと	書き出すまでが辛かったが、書き始めると自然に進みだす。勢いがついたらひたすら書くことよい。	人間に重点をおいた研究だったため、主観的になりすぎて、独りがりの視点で書いていたときがあった。論文に客観性を持たせるために、ドキュメンタリーのような本は避けるようにした。方向性に困ったときは、先生方や友人たち、NGOのスタッフの方に話を聞いてもらい、新しい視点を得た。他の大学の先生方にも伺ってみるのも良いかも。	文献を読み進めていくうちに、情報が蓄積し、それを整理することが困難だった。 様々な情報の中で共通しているものと共通していないものが必ず出てくるが、共通しているものからどんどんまとめていき、共通していないものについては後に考える、という方法で執筆した。書ける章から進めていくということも心掛けた。  執筆期間が2ヶ月しかなかった自らの経験を省みて、満足のいく卒業論文を執筆するためにも、ぎりぎりにならないようにすること。
Q6 卒業論文に取り組むときのポイント	早めに資料を集めて、書くのが楽しみになるように自分で行動する。	自分の殻に閉じこもりがちになってしまうので、新しい視点を得るために、先生方や友人に話を聞いてもらう。 分野が違って、自分が話している最中に考えがまとまったり、新鮮な意見を聞くことができる。	自分が関心を持つものを見つけること(後はその関心について強い探究心があれば卒業論文を楽しく執筆することができる)。 自分の言葉で執筆することが一番重要。
Q7 参考文献の入手経路	・女子大学図書館 ・学習院大学図書館 ・国会図書館 ・日本舞踊の先生から貸して頂いた書籍	・指導教授に相談 ・NGO団体のスタッフの方に相談 ・インターネット ・学習院女子大学や公共図書館などのデータベース ・ゆかりの地の博物館や資料館を訪れて入手	・女子大学図書館 ・学習院大学 (以上、データベース含む) ・インターネット ・ドイツで参考文献を購入
Q8 Q7で回答された方法を用いることのメリット	指導教授の論文を引用する場合、学習院資料として所蔵されているので使いやすい(引用をする際にさまざまな文献があると、書きやすい)。  国会図書館には娘道成寺の論文が多かったので役立った。	様々な方法を用いることで、一つの論点について多角的に取り組むことができる。	データベースではキーワードを入れるだけで一気に本を検索することが可能なため、外国語の文献でも日本語の文献と同内容のものを発見できる。また、日本語の文献には書かれていないものも発見できる。 日本語と外国語の文献を両方用いると便利。
Q9 お薦めのデータベースやオンラインジャーナル	伝統芸能ならば国立劇場のデータベース	国立国会図書館のデータベース (画像資料のデータベースもあるなど、検索方法の種類が豊富にあるため)	学習院データベースナビ